

ナスバ(独立行政法人自動車事故対策機構) 病床 ～5年を振り返って～

はじめに

当院にナスバ(NASVA: National Agency for Automotive Safety and Victims' Aid) 病床が開設されたのは、2020年2月のことでした。開設と同時に1人の患者さんを迎え入れ、スタートしました(定員5名)。新しい取り組みを始める高揚感と患者さんに3年間関わる不安とを、強く感じたことを覚えています。ナスバ病床では、交通外傷後の脳損傷で遷延性意識障害と診断された方を、3年を上限に受け入れています。当院を希望されるご家族は、主たる介護者が愛媛県や近県の方がほとんどですが、患者さんの受け入れは四国地方だけでなく、中国地方も含めて広く門戸を開いています。

受け入れの流れ

患者さんの受け入れの流れを簡単に説明いたします。不運にも交通事故で受傷され、遷延性意識障害と診断された方は、救急病院・回復期病棟・療養型病床、どのタイミングでもナスバ病床への問い合わせが可能です。松山市民病院に連絡をいただきましたら、スタッフが入院中の病院まで訪問し、ナスバ病床および入院申し込みのご説明を行います。その後、入院審査委員会を経て入院となります。お気軽に地域医療連携室(TEL:089-913-0081)まで問い合わせください。

看護部

病棟看護としては、月日の巡り、季節の移り変わりの速さを実感しています。これまで急性期としての病棟看護を日常業務としていましたが、ナスバ病床開設前に受けた研修で、意識障害者の変化は少ないため、患者さんの表情や嫌がるちょっとした体動、声かけ時の視線や顔の向きなど、わずかな変化を捉える実践的な看護を教わりました。このわずかな変化をカンファレンスや毎日の引き継ぎでスタッフ間で共有しています。

患者さんの変化があること、また変化に気づけることはとても嬉しいです。「寝たきり」の患者さんと思いついで看護するのではなく、リハビリや他職種と協力しながら、少しでもいい方向に変化するだろうと考えて看護業務を実践することに、やりがいを感じています。ナスバ病床の季節の飾り付けをするときも、もしかしたら表情の変化がみられるかもしれないと期待を持ちながら看護しています。

今後も、予期せぬ事故に遭われた患者さんが来られると思いますが、看護技術を高め、患者さんをお迎えする準備をしっかりと進めて参ります。

リハビリテーション室

リハビリとしては、基本に忠実になることを心掛けま

した。日々の評価から患者さんの変化を把握し、その変化を毎日のリハビリにどう取り込んでいくかを主治医と確認し、毎週のカンファレンスにおいて多職種間で目標を共有しています。この5年を振り返ってわかったことは、患者さんにもよりますが、脳幹や辺縁系を意識したリハビリが結果に結びつきやすいことでした。快・不快の反応、特に不快の表現を促し、コミュニケーションの導入に利用することができました。また、嗅覚刺激での嚥下訓練では、安定した経口摂取に到ることができました。

患者さんからの気づきだけでなく、先行研究にも頼りながら、リハビリ技術の向上を図り、四国で唯一のナスバ病床を盛り立てていきます。約3年という長期間、チームで患者さんに関われることは、大変勉強になり、これまでに身につけたリハビリの視点もよい意味で覆されています。

さいごに

ナスバ病床では、院内イベントに積極的に参加しています。河原アイペットワールドによる動物とのふれあい体験、各種演奏会、似顔絵会など、さまざまな体験が可能です。日常の入院生活だけでなく、普段と異なる環境を体験してもらうことで、わずかな表情の変化につながることを期待しています。ナスバ病床に関わるスタッフ一同、一丸となり患者さんの改善に取り組んでいます。

(文責: 地域医療連携室 主任 言語聴覚士 北村 広志)

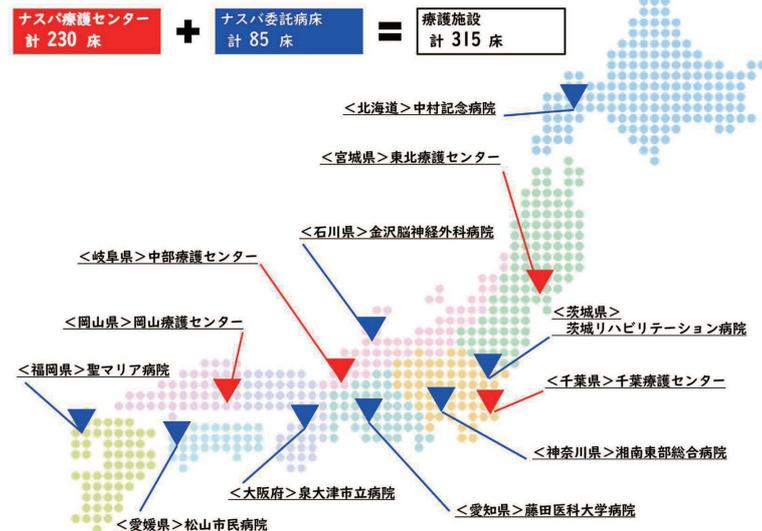
ナスバは安全・安心のパートナー
～頼れるナスバ、寄り添うナスバ～



支える
被害者の支援

ナスバ療護施設のご案内

ナスバでは、自動車事故によって脳に損傷を負い、重度の後遺障害が残り、治療と常時の介護を必要とする方の治療、看護及びリハビリテーションを行う、専門病院を国内12か所に設置・運営しています。



詳しくは、当機構HPでご確認ください!
URL: <https://www.nasva.go.jp/>



ナスバ、SNSはこちらから
X (旧Twitter) Facebook



山本理事長

ナスバチーム一丸となり患者さんの改善に努めます!